



2年生が地元企業の説明会に参加しました

来年の就職活動に役立てて

高校2年生対象の企業説明会



高校2年生対象の企業説明会

進路決定に役立ててもらおうと、2年生向けの説明会も毎年開いている。

参加企業は例年より多いといい、製造や建設、飲食、医療など多種多様な業種のほか、進学の見学先として飯田短期大学と飯田コアカレッジも参加した。

午前の部には飯田OIDE長姫高校の2年生全員、午後の部には他の6校の希望者が参加。生徒たちは事前に選んだ事業所のブースを訪れて25分間ずつ説明を受けた。

事業者側はモニターやパンフレットを用いて企業理念や業務内容を説明。福利厚生の実に取組んでいることなども紹介し、自社製品を持参してアピールする姿もあった。生徒たちは事業者の話に耳を傾け、質疑応答では職場環境や求人条件などを熱心に質問した。

飯田職業安定協会

飯田職業安全協会は2日、高校2年生を対象にした企業説明会を飯田市座光寺のエス・バードで開いた。飯田下伊那地域の8高校のうち7高校から約400人が参加。さまざまな業種の地元企業84社から説明を受けた。協会は高校3年生向けの企業説明会も開いているが、高校生の早い時期から地元企業の事業内容を知って来年の就職活動や進学後の

「建設業を中心に巡った飯田OIDE長姫高校社会基盤工学科の後藤雅杜さん(16)は「具体的な仕事内容ややりがいなど、普段聞くことのできない現場のリアルな声を聞くことができた。必要な資格なども教えてもらって将来を考える参考になった」と語った。製造会社の担当者は「人材不足が深刻な中、生徒と直接話をして自社の強みを伝えられるのは貴重な機会」と話していた。

原動機部 エコデン岸和田大会で、2位・3位入賞

表彰台でフィニッシュ

OIDE長姫高 原動機部が今シーズン終える

飯田OIDE長姫高校原動機部は、11月に大阪府岸和田市で開かれた「2024エコデンレース全国大会」で2位と3位に入賞し、今シーズン最後の表彰台に上った。部長の久保田洋太は、来年はすべての大会で優勝を目指したい」と決意を新たにしている。



エコデン全国大会で2、3位に入った OIDE 長姫原動機部



コースを疾走する WISDOMα (左)

大会で優勝を目指したい」と決意を新たにしている。岸和田の大会では、単三乾電池10本を使用する競技時間40分間の耐久レースに出場し、周回数を競った。同部からは2台が出場し、車名「WISDOMα」は制限時間内で52周を走り切り2位、「WISDOMβ」は49周で3位だった。

岸和田競輪場に設けられた特設コースで、路面はツルツルしていて抵抗が小さく、速さとバッテリーのバランス調整に他のレースとは異なるアプローチが求められるという。リーダーの櫻井煌成さん(16)は「セッティングを変更しながら対応した。持てる力は出せた」と振り返った。

顧問の中村秀一教諭は「各大会でレギュレーションの変更があり、チャレンジした年だった。その中でも反省を生かしながら上位の結果を残せたことは来シーズンにつながる」とし、関わった人や地域に感謝していた。

WISDOMαのドライバーの宮下昊翔さん(17)は「車体の特性を知った上でレースを組み立てた。次までにテクニクを磨いて優勝を目指せるようにしたい」。WISDOMβのドライバーの熊谷渾太さん(16)は「ドライバーになって初めての表彰台はうれしかった。攻めのレースを身に付けて上を目指したい」と喜びの表情を浮かべた。

今季は7月に三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで開かれた「Ene-1 スカチャレンジ」で高校生部門1位となり、同部門の12連覇を達成。9月には栃木県茂木町のモビリティリゾートもてぎで開催された「2024 Ene-1 MOT EGI GP」で出場した2部門3台すべてが入賞。高校部門2位(総合3位)と同4位(同8位)の好成績を挙げた。10月に愛知県豊橋市で開かれた「第22

「飯伊地区高等学校美術書道展」 本校美術部も 作品を展示しました。

2024年(令和6年)12月8日 日曜日

南 信 州 新 聞



多彩な作品が並ぶ会場

8校の成果111点

8日まで 高校生の美術書道展

飯田下伊那地域の高校の美術・書道クラブによる「第44回飯伊地区高等学校美術書道展(県教育委員会など主催)」が7、8の両日、飯田市東和町の丘の上結いスクエア3階ムトスぶらざで開かれている。8校の生徒の111点が来場者を楽しませている。発表を通じた交流や互いの制作活動の活性化、技術向上を目的に開いている。松川、飯田風越、飯田、飯田OIDE長

田、飯田OIDE長 事務局長を務めた飯田高校の美術班4人は、ここ1〜3カ月で仕上げた新作を展 示した。同高の書道班には13人が所属しているが、今回は創作をテーマに好きな言葉や目標を書いた。2年の富田華怜さん(同)は全てのこと

がうまくいくことを意味する「百事吉祥」を隷書で仕上げた。「かすりを意識して墨の量を調整した。反省点もあるがうまくいったので満足」とし「これから得意な字体を極めて、力強く書けるようになりたい」と話していた。無料。8日は午前9時〜午後5時。

OB 佐々木重光様(飯田工業)

に絵画の寄贈をして頂きました。

2024年(令和6年)12月11日 水曜日

南信州新聞

森を描いた油絵寄贈

OIDE
長姫高に OBの佐々木重光さん

飯田OIDE長姫
高校の前身飯田工業
高校卒業生の佐々木
重光さん(82)が飯
田市鼎名古熊が6
日、自身が描いた油
絵(50号)を同校に
寄贈した。11月6日、
飯田カントリー倶楽
部で開かれた同窓会
ゴルフコンペで自身
初となるホールイン
ワンを達成し、学校
に何か贈りたいと絵
画を選んだ。

佐々木さんは南信
美術会と信州美術会
の会員。趣味として
描くようになった半

世紀の間、多くの作
品を生み出してきた。
寄贈したのは、
佐々木さんが代名詞
とする「森」を描い
た作品。晩秋の森を
描き、シラカバの白
と深緑の森、紅葉の
黄色のコントラスト
が絶妙なハーモニー
を醸し出している。
「楽しいメンバー
とゴルフしたらまぐ
れでホールインワン
が出た」と照れなが
ら語る佐々木さん。
「何か贈りたいと考
えた時に、同窓会館

が殺風景だったのを
思い出し絵を贈ろう
と思った。森は神が
宿ると言われている
。生徒たちを見守
ってくれると思う」
と願った。

須山和彦同窓会長
は「非常にありがた
いこと。大切にしてい
きたい」と語り、
宮澤直哉校長は「高
校は多感な時期。絵
を見ることで情操が
養われていくのでは
ないか」と感謝した。



絵画を寄贈した佐々木さん(左)



飯田市社協

被災地活動の報告も

社会福祉大会と研修会

飯田市社会福祉協議会主催の第68回市社会福祉大会が7日、鼎文化センターで開かれた。テーマは「災害と地域の支え合い〜福祉の力で防災・減災〜」。大会後の地域福祉活動推進研修会を通じて地域福祉の重要性と必

要性を再認識した。大会では特別功勞として19人を表彰し、3人に感謝状を贈った。寄付者の紹介もあった。

日の研修会ではキャンプに参加した生徒が2日間の活動を振り返った。キャンプは被災地で学んだことを持ち帰り、災害時の支えになる人材を育成する狙いで飯田、飯田風越、飯田女子、下伊那農、飯田OIDE

E長姫の5校から計14人が参加した。現地での活動後にそれぞれ新たな一歩を踏み出したといい、赤い羽根共同募金の街頭募金活動や災害救援ボランティア養成講座への参加を紹介し「学んだことを将来に生かしたい」と



社会福祉大会の式典

語った。

式典で社協の原重

一会長は「住民一人一人が支える側と支

えられる側の関係ではなく、共に生きる関係でつながりを持つことが必要な時代」と述べ、名誉大会長の佐藤健市長は大会テーマに触れた上で「災害への備えは物理的、心理的の二つの安全性を確保することになり、いざという時に助け合い支え合える『顔の見える関係』をいくつも持つことが心理的な安全性につながる」とし、日頃の備えにつながることを期待した。

市社会福祉大会 能登半島被災地支援

高校生ボランティア活動報告

商業科 地域人教育成果発表会を 飯田市鼎文化センターで開催しました



OIDE長姫高の地域人教育成果発表会

OIDE長姫高 地域での学びの成果披露 商業科の「地域人教育」

飯田OIDE長姫高校商業科が飯田市、松本大学の協力を受けて取り組む「地域人教育」の成果発表会が24日、飯田市鼎文化センターであった。市内の各地区をフィールドに課題解決などに取り組んだ3年生が、活

動をともにした地域住民らを前に経過や成果などを示した。地域人教育は、地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育て地域活性化や社会に貢献できる人材の育成を目的とする教育プログラム。3者のパートナーシップ協定に基づいて前身の飯田長姫高校時代に始め、今年で13年目を迎えた。

この日は、市内6地区と全市などで活動を展開した10グループが、プレゼンテーションに臨んだ。全市型のグループ

は、一度は都会に出ても再び地元に戻ってきたくなるような経験を積んでもらう狙いで、水引、郷土料理、和菓子を研究し、体験企画を立案。水引会社や和菓子店、飲食店、民間団体、公民館などが協力した。

生徒は「住む人は当たり前過ぎて、その魅力に気づけていない」とテーマ設定した理由を示し、「いずれの飯田の文化も、源に『水』がある」と主張。おいしいうちの水によって飯田の文化は育まれてきた」と続けた。

水引体験や郷土料理と和菓子の調査、猿庫の泉訪問などを経て、11月の羽場地区文化祭に出展。猿庫の水を使ったコーヒーや和菓子(くず餅)を提供し、水引体験や飯田の文化クイズなども繰り広げた。

代表生徒は「活動を通して仲間を増やすことができた。水が原点であることを伝えることで、飯田の魅力として知られてきたのでは」と成果を強調した。